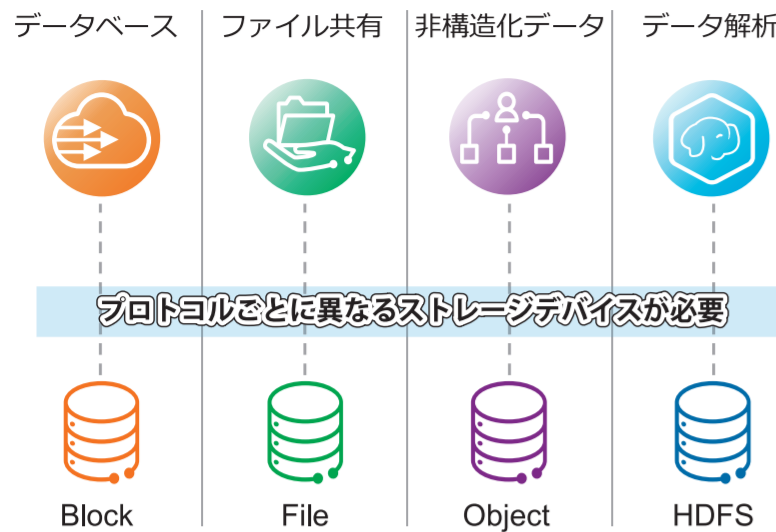


サイロ型から4 in 1 統合サービスへ

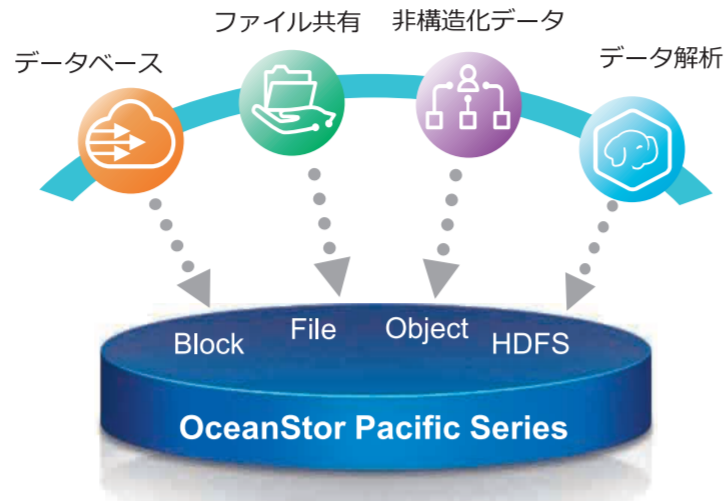
レガシーなサイロ型サービス



プロトコルごとに異なるストレージデバイスが必要

- ストレージ・デバイスが異なると、運用・管理と保守が複雑になる
- 新しいアプリケーションに対応した新デバイスを導入した時点で利用開始 (時間が必要)

OceanStor Pacific 4-in-1 サービス



60% OPEX 削減
90% TTM 短縮

- ストレージ統合により運用・管理・保守がシンプルとなる
- クラウドでの動的リソース割り当てにより利用開始までの時間を短縮

高密度化によって1筐体で1TBの容量が実現する時代になってきており、大容量のストレージが必要な場合、高密度化でシャーシ数が減らせることから、電気代を含めたコストを削減したいという。また池田氏は、SSDはAI関連の需要が大きくなる中で、世界的にも競争が激しくなり、大容量・低価格な多層フォーラムの向上が進んでいることも指摘している。

池田氏は、放送局に自社ストレージを提案した際、欧米ベンダー製品しか検証していないため、採用できないといった回答をよくもらうという。そこで現在、ファーウェイでは、放送局向けに豊富なベンダーに協力してもらい、そのアプリケーションを実際に検証している。また、ユーザーの運用コストを削減する上で、ユーザーに提案する際の取組を進めている。放送局が普及しているアプリケーションをベースに、各アプリケーションは、その基盤をベースにシステムを組む考え方に移行していったと姜氏は説明する。

池田氏は、放送局は、仮想化技術や豊富なIT製品を持つことが、共通基盤の構築に有利になるとしている。

池田氏は、日本では地方局を中心に、報道系と制作系を共通化する傾向があり、コンテンツ管理システムは、アーカイブとストレージを統合して運用している。

池田氏は、日本では地方局を中心に、報道系と制作系を共通化する傾向があり、コンテンツ管理システムは、アーカイブとストレージを統合して運用している。

分散型ストレージでアーカイブシステム

アクセス速度が向上、コストも削減

AI系アプリで自動的にタグ付けも

価格でシステム構築できる。その分の費用を別の予算に回すことで、ROI(投資利益率)向上に期待できるという。池田氏は、アーカイブシステムは、アーカイブとストレージを統合して運用している。また、ユーザーの運用コストを削減する上で、ユーザーに提案する際の取組を進めている。放送局が普及しているアプリケーションをベースに、各アプリケーションは、その基盤をベースにシステムを組む考え方に移行していったと姜氏は説明する。

池田氏は、放送局は、仮想化技術や豊富なIT製品を持つことが、共通基盤の構築に有利になるとしている。

池田氏は、日本では地方局を中心に、報道系と制作系を共通化する傾向があり、コンテンツ管理システムは、アーカイブとストレージを統合して運用している。

池田氏は、日本では地方局を中心に、報道系と制作系を共通化する傾向があり、コンテンツ管理システムは、アーカイブとストレージを統合して運用している。

アーカイブまで共通基盤で一体運用

ワンストレージソリューション

HUAWEI 日本市場で積極展開

幅広い要求に対応した製品群

収録・編集・コンテンツ管理から



池田氏



姜氏

「OceanStor Pacific 9920」は、100Gbpsインターフェースに対応している。収録しながら編集するいわゆる「追いつけ追い越せ」の中で、ファーウェイが放送局に推奨しているのが「OceanStor Pacific 920」と同9546」だ。

「9920」は、ソフトウエア定義の超ハイパフォーマンスのオールラウンドストレージシステム。2U筐体で100TBを収容できる。コントローラ付きの筐体を増設し、スケールアップしやすくなる。パブリッククラウドストレージのイメージに比べて同じディスク数で6.14倍、2Uディスク25枚で153.6倍、25Gbpsまで読み書きする仕組み。外部からはSSDにアクセスするだけで完了できるため、カートマシンのような高価なハードウェアを必要としない。LTOとSSDの利点を融合した形だ。ファーウェイは、LTOと同容量で20%ほどのコストダウンが図れるとしている。

「MED」の製品は2025年以降にリリースされる見込みだ。この製品が出てくると、大容量のアーカイブシステムは、現在主流のLTOからMEDに移行していく可能性があるという。池田氏は、テープメディアを使用している放送局以外の産業への刺激にもなり、ユーザーの選択幅が増えることを期待する。

さらに、MEDの製品によって、ストレージソリューションのラインナップが完成形になるといえる。ハイパフォーマンスからコストを抑制した大容量まで、あらゆる容量のソリューションを提供できる。池田氏は、放送局に自社ストレージを提案した際、欧米ベンダー製品しか検証していないため、採用できないといった回答をよくもらうという。そこで現在、ファーウェイでは、放送局向けに豊富なベンダーに協力してもらい、そのアプリケーションを実際に検証している。また、ユーザーの運用コストを削減する上で、ユーザーに提案する際の取組を進めている。放送局が普及しているアプリケーションをベースに、各アプリケーションは、その基盤をベースにシステムを組む考え方に移行していったと姜氏は説明する。

池田氏は、放送局は、仮想化技術や豊富なIT製品を持つことが、共通基盤の構築に有利になるとしている。

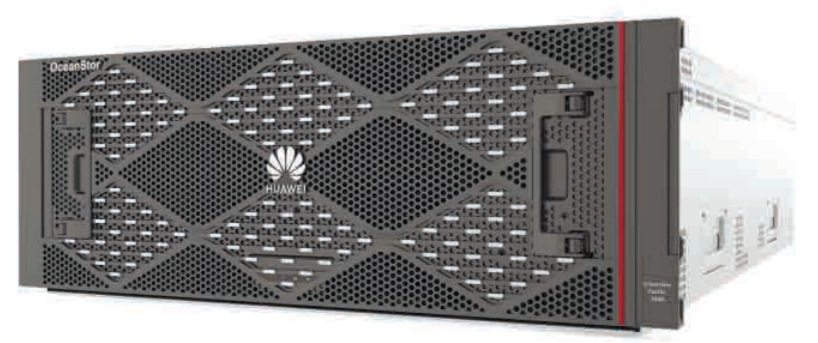
池田氏は、日本では地方局を中心に、報道系と制作系を共通化する傾向があり、コンテンツ管理システムは、アーカイブとストレージを統合して運用している。

池田氏は、日本では地方局を中心に、報道系と制作系を共通化する傾向があり、コンテンツ管理システムは、アーカイブとストレージを統合して運用している。

OceanStor Pacific9920



OceanStor Pacific9546



SSDとテープのハイブリッドディスク 「MED」開発 25年以降リリースへ

お問い合わせ先
華為技術日本株式会社
電話：03-6266-8008
E-mail: storageteam.jp@huawei.com